

**第1回 2015年4月16日(木) : 第8期 一流塾 開塾式**

2015年4月16日に第8期の一流塾が開塾しました。塾生は、「チャレンジ精神を持った起業家」、「2世・3世の後継者」、「大企業の経営幹部」の三種混合の計42名(平均年齢46歳)であり、地域、業種、規模が異なる様々な企業から経営者や経営幹部が集い、また女性の塾生がこれまでで最も多い7名となるなど、多様性の高い塾生で構成されています。



一柳塾長

第1部では、一柳塾長から開塾の挨拶の後、「出でよ、志ある経営者たち」と題して講話をいただきました。講話の中では、日本の次代を担う経営者のために7年前に一流塾を創設した当時の想い、各界一流の“ホンモノ”の講師やゲストの貴重な経験や知識から学び、視野を広げて自らを磨くことの大切さ、また、講師・ゲストや良い仲間との絆を脱いだ交流を通じてのネットワーク構築、そして出会う人からまた会いたいと言ってもらえるように人間力を高める努力をすることなど、塾生への期待と激励をお話いただきました。

その後の塾生による1分間スピーチでは、それぞれの仕事や入塾に対する思いなどについて自己紹介が行われました。



講師 斉藤氏

第2部の開塾式では、講師の斉藤惇講師（(株)日本取引所グループ 取締役兼代表執行役グループCEO）、渡邊五郎氏（元三井物産(株) 副社長）、特別ゲストの三屋裕子氏（(株)サイファ代表取締役・スポーツプロデューサー）にご出席いただき、祝辞と講話をいただきました。

斉藤氏からは、日本の上場企業が複数の社外取締役を置くようになるなど、株主やコーポレートガバナンスの強化・透明化を重視する取り組みが官民双方で進んでいることを例にあげ、国内企業が大きく変わろうとしていることをご紹介いただくとともに、こうした変化を理解して塾生が経営者として成長することの大切さをお伝えいただきました。



講師 渡邊氏

渡邊氏からは、変化の時代においては、変化し続けることが常態であり、スピードを緩めることなくリーダーシップを発揮し、変化を起こす主体者であることが重要であるとの話しをいただきました。また、良き仲間とのネットワークの大切さを、ご自身の経験から塾生に語りかけられました。

三屋氏からは、人は失敗から学ぶが、学んだものを吸収するのは誰かに学んだことを伝えるときであるということや、リーダーが学ぶ姿勢を見せることでメンバーも学



特別ゲスト 三屋氏



第8期一流塾 開塾記念撮影

ぶ意欲が出てくるということをお話いただきました。また、自己と他者・過去と未来の2軸から、自分がコントロールできるものは将来の自分だけであること、それゆえに、気持ちが沈みがちなときこそ、自分の未来を考えて気持ちを高めるよう意識することを塾生にお伝えいただきました。

記念撮影の後、会場を移して行われた懇親会では、冒頭に斉藤氏から乾杯のご挨拶をいただきました。

その後、特別ゲストである三屋氏から、『リーダーシップのヒント』と題して卓話をいただきました。三屋氏からは、スポーツ界のリーダーシップを例に、メンバー全員が同じゴールを達成する意識を明確に共有すること、そのゴールを達成するために現状とゴールとの差異を把握することなど、ゴール達成のためにリーダーが取り組むべきポイントについてお話いただきました。塾生からは、スポーツ界の話しにとどまらず、ビジネスの世界にも共通する有益なヒントをお示しいただいたと、大変好評でした。



斉藤氏による乾杯の挨拶



特別ゲスト 三屋氏

懇親会では、積極的な名刺交換が行われ、また、一柳塾長、斎藤氏、渡邊氏、三屋氏を囲んでの歓談や塾生同士の会話が弾み、あちこちで絶えず笑い声が上がるなど大いに盛り上がりました。塾生からは、「著名な講師やゲストの先生を目の当たりにし、“ホンモノ”の方から貴重なお話をいただけることに感激した」、「様々な出身や年齢の塾生がいて自分の知らない世界を学べる」、「はじめは緊張したが、打ち解けやすい雰囲気、気さくな塾生ばかりなので良いネットワークが築けそうだ」といった喜びや期待の声があがりました。



懇親会風景①



懇親会風景③



懇親会風景②

懇親会終了後、塾生有志による塾長を囲んでの放談会が行われ、一柳塾長の昼間の講義とは全く違った側面に触れた塾生たちは、これまでの緊張が一気にほぐれて会話も弾み、袴を脱いだ和気あいあいとした交流が夜遅くまで続きました。

**第2回 2015年5月13日(水)**

第2回の一流塾では、講師に大山健太郎氏(アイリスグループ会長)及び大西洋氏(㈱三越伊勢丹ホールディングス代表取締役社長執行役員)、懇親会の特別ゲストに絹谷幸二氏(日本芸術院会員、画家、文化功労者)をお迎えしました。



講師 大山氏

第1部では、『変化対応の経営』と題して、大山氏が講義を行いました。大山氏は、世界的には10年単位で想定外のことが起こっており、大きな変化に直面しても企業として成長するためには企業理念が重要であるとして、自社の企業理念をご紹介頂きました。一方で、将来は予想しても変化してしまうので、中・長期の計画を立てることはせず、利益率と新商品比率の目標を明確にしておくことが重要であるとお話し頂きました。ビジネスの成功については、自社の強みを活かすことや、ユーザーインの発想、良い人材を確保すること、さらにはリスクを取って競合に勝つことなどを、ご自身の経験や事例を交えてお話し頂きました。塾生からは、「徹底したユーザーインの発想に感銘した」や「社員がチャレンジできる仕組み作りは大変参考になった」など、ビジネスを成功に導くヒントを得たという声や、ピンチに立ち向かう経営者の姿への尊敬の声があがりました。



講師 大西氏

第2部では、『小売業のあるべき姿にむけた変革』と題して、大西氏が講義を行いました。講演の冒頭、大西氏からは、小売業界における百貨店の厳しい状況をご説明いただいた後、新たな価値を創造し、お客様に提供するという自社の取り組みをお話し頂きました。新たな価値創造のために、地方や地域の特性に合わせた商品・サービスの探求、あるいは首都圏の取り組みを地域百貨店にも拡充するなど、これまでとは異なるチャレンジを事例と共にご紹介頂きました。また、物流改革によりビジネスを好循環に転換すること、世界のラグジュアリー市場において日本製品の確固たる地位を築くこと、マーケティングや人材育成の重要性など、様々な見地から経営のポイントをご紹介頂きました。塾生からは、「厳しい経営環境下でも、次々と新しいことにチャレンジする姿勢に感銘を受けた」や「現状にとどまることなく将来の成長のために人材育成に力を入れていることは大変参考になった」などの声があがりました。

また第2部の開始前に、一流塾特別顧問の福川伸次氏(一般財団法人地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官)もご出席され、塾生への激励のお言葉を頂戴しました。

講義後の懇親会では、冒頭、講師の大西氏から乾杯のご挨拶を頂いた後、特別ゲストの絹谷氏から『アートなさじ加減』と題して、卓話を頂きました。絹谷氏からは、色彩は人間の脳が認識しているに過ぎないが、色彩があるから人が関心を持ち、集まって来る。人間社会も同じく多様な人がいてこそ世の中は面白いのであり、企業も同様であるといった芸術家ならではの切り口からお話し頂きました。卓話後は、絹谷氏の作品をまとめたサインつきの冊子をプレゼントして頂き、ジャンケンで勝ち取った塾生からは喜びの声が上がりました。その後の懇親会では、各テーブルで講師・ゲストと塾生との盛んな議論が閉会まで続きました。

懇親会后、塾生有志が塾長を囲んで行った放談会では、内閣官房の幹部にご出席頂きました。普段は見聞きすることのないお仕事の話に、塾生も熱心に耳を傾け、また働き方や女性人材の活用など多様な話題で一同大いに盛り上がり、熱い議論と共に塾長と塾生の交流が閉店まで続きました。



特別顧問 福川氏



特別ゲスト 絹谷氏



懇親会風景

## 第3回 2015年6月16日(火)

第3回の一流塾では、講師に森澤紳勝氏(㈱日本トリム 代表取締役社長)及び齋藤ウイリアム浩幸氏(㈱インテカー 代表取締役、内閣府本府参与)、懇親会の特別ゲストに野田聖子氏(衆議院議員、元自由民主党総務会長、元郵政大臣、元消費者行政推進担当・宇宙開発担当大臣)をお迎えしました。



講師 森澤氏

第1部では、『良い会社とは～創業から今日まで～』と題して、森澤氏が講義を行いました。冒頭、「電解水素水」を使った実験をご披露いただき、抗酸化作用の特徴などをわかりやすく解説していただきました。その後、森澤氏からは、トリムの水を健康増進につなげることで社会に貢献するという、経営者としての想いをお話し頂きました。その上で、学生時代や、サラリーマン時を経て独立したとき、またビジネスが軌道に乗るまでの時期など、人生の節目で直面した苦労や試練の数々を、具体的なエピソードを交えてご紹介頂きました。また経営者として大切にしていることとして、「若手人材の抜擢」、「責任はとるものではなく果たすもの」、「反対意見を大切にする」などをお伝えいただきました。塾生からは、「水はタダと思われた時代に水素水の価値に気づき、科学的なエビデンスを重視してビジネスに発展させてこられた胆力に感銘を受けた」や「反対意見を大切にするというのは、自分の組織に足りないことだと痛感した」といった声があがりました。



講師 齋藤氏

第2部では、『グローバルな視点からみた日本企業の課題』と題して、齋藤氏が講義を行いました。日系2世として1971年にロサンゼルスで生まれた齋藤氏は、コンピュータのセキュリティなどに使われている生体認証暗号システムの開発に成功したアメリカでも著名なアントレプレナーで、マイクロソフトに会社を売却して母国・日本に拠点を移し、イノベーションとアントレプレナー育成に取り組んでいます。講義の冒頭では、アメリカで成功するまでのチャレンジや安倍首相の訪米に随行した際のエピソードをご紹介頂きました。その後、現在の日本は諸外国から再び高い関心が示されており、「Japan is Back」の理解がグローバルに広がりつつあることをお話し頂きました。続いて、日本をより良くするためには教育が重要であり、「What を暗記するよりも Why を考える」こと、自ら考えアウトプットする力を磨くことが、世界で通用する力を育むためには必要であるとお考えを述べられました。講義の終盤には、今後のトレンドを踏まえ、日本の方向性は「Made in Japan から Designed in Japan」であるとお考えをお示しになりました。塾生からは、「イノベーションの本当の意味を初めて理解できた」や「『成功の反対は失敗ではなく挑戦しないこと』の言葉は非常に感銘を受けた」といった声があがりました。

懇親会では、森澤氏から乾杯のご挨拶を頂いた後、特別ゲストの野田氏から『日本の再生』と題して、卓話を頂きました。野田氏からは、少子高齢化社会の現状と将来の課題を、ビジネスや国防、女性の活用といった分野に関連づけて具体的にご紹介頂きました。また、日本の置かれた状況は厳しいものの、ポテンシャルのある国であり、1970年代の頃の方から脱却し、女性の活用などダイバーシティの推進が重要であるとお話し頂きました。日本の直面する問題に、政治家として毅然と立ち向かう芯の通った姿勢に、塾生は大いに感銘を受けていました。一方で、懇談の際には誰とでも気さくに会話を交わされ、その親近感に塾生は魅了されていました。卓話後には、講師陣との記念撮影が行われ、その後も各テーブルでは講師・ゲストと塾生とのオープンな意見交換や議論が閉会直前まで続きました。

懇親会后、塾生有志が塾長を囲んで行った放談会では、齋藤氏にもご出席頂きました。講義では聞けなかったことや、塾生個々の課題など、次々に質問が寄せられ、熱い議論を通じた塾長・講師と塾生との交流が深夜まで続きました。



特別ゲスト 野田氏



懇親会風景



放談会風景

**第4回 2015年7月10日(金)・11日(土)**

第4回一流塾は、都会の喧騒を離れ、「中伊豆ワイナリーヒルズ」で合宿研修を行いました。講師に一柳塾長と木村皓一氏（㈱ミキハウス 代表取締役社長）、懇親会の特別ゲストには白石真澄氏（関西大学 政策創造学部教授）をお迎えしました。また懇親会には、一流塾特別顧問の福川伸次氏（一財団法人地球産業文化研究所 顧問、東洋大学 理事長、元通商産業事務次官）にもご出席いただきました。



一柳塾長

第1部では、『ベンチャー政治家 田中角榮論』と題して、一柳塾長が講義を行いました。一柳塾長は、田中角榮先生が通産大臣に就任されていた時に大臣秘書としてお仕えしており、角榮先生の言葉の分析から得られた「異なる3点から情報をとれ」「水は高さより低きに流れる」等の教訓5カ条は、企業経営に通じるものがあると説きました。また、角榮先生は人脈作りにも大変長けており、その秘訣をまとめた「角榮流 人脈作り 10カ条」を秘書時代の思い出を交えながら披露しました。塾生からは「田中角榮先生の優れた洞察力と、教訓5カ条で示されたことを一貫して実践されたことにリーダーとしての凄みを感じる」、「異なる3点からの情報により客観的に判断し、実行することがリーダーには不可欠だと感じた」、「尊敬されている田中角榮先生のお話しを通じて、塾生が経営者として成長してほしい」という塾長の熱い想いが伝わった」といった声があがりました。



講師 木村氏

第2部では、木村氏が『誇りの持てる企業文化を』と題して講義を行いました。講義の随所で、ミキハウスが支援しているスポーツ選手や社員の方々が、木村社長の激励や特別な支援に感銘し、自分のためではなく周囲や社会のために役に立とうと思ひ頑張っている姿が紹介されました。また講義の中では、木村氏が会社創業時に商品サンプルを持って地域一番店を訪問した時の秘話や、取引銀行の支店長とのやりとりのエピソード等をご披露頂きました。そのうえで、既成概念に捉われず、あきらめずに取り組むことの大切さや、人と人の繋がりを大切にする事の大切さなどを、ミキハウスのオーナー経営者としての経営哲学に重ね合わせてお話し頂きました。塾生からは、「子どもに夢を与えるという明確なビジョンがあるからこそ卒に捉われない対応ができ、それに社員が応えている姿に感銘を受けた」、「創業から今日に至るまで、揺るがぬ絶対的価値を持ち続けていることが競争優位の根源になるのだと強く印象に残った」、といった声があがりました。

懇親会では、一柳塾長による開会挨拶と木村氏による乾杯の後、福川氏からご挨拶を頂きました。福川氏からは、日本人のコミュニケーションのスタイルがグローバルな競争社会では通用しないことをご紹介いただきながら、一流塾でコミュニケーション力を磨いてほしいと塾生を激励して頂きました。



懇親会前の集合写真

## 第8期一流塾 講義模様

その後、懇親会の特別ゲストの白石氏から『ダイバーシティの時代』と題して卓話を頂きました。白石氏は、海外の投資家からは女性の活用が進まない日本企業に厳しい目が向けられていること、女性の活用が進んでいる企業ほど生産性も業績も良いこと、柔軟な働き方は女性だけでなく男性にとっても望ましいことなどをお話し頂きました。

白石氏の卓話後も各テーブルで講師陣を囲んでの歓談が行われました。その後、歓談を挟んで行われた塾生による1分間スピーチではウィットに富んだスピーチが披露され、会場は大いに盛り上がりました。



一流塾特別顧問 福川氏



特別ゲスト 白石氏

懇親会の後は、塾長、木村氏、福川氏、白石氏を囲んで2次会を行いました。一同、まじめな話から柔らかな話まで酒を飲みながら深夜まで懇親をし、またカラオケで一緒に盛り上がり、講師陣や集まった仲間との袂を脱いだ交流により親睦を一層深めました。



懇親会風景①



懇親会風景②



懇親会風景③

翌朝は、塾長と塾生有志によるワイナリー見学を行いました。中でも、シャトーから望む広大な葡萄畑の眺めは塾生からも大変好評でした。



ワイナリー施設見学の模様



ワイナリーでの集合写真

**第5回 2015年9月15日(火)**

第5回の一류塾は、講師に牧野明次氏（岩谷産業㈱ 代表取締役会長兼 CEO）と前田新造氏（㈱資生堂 相談役）、懇親会の特別ゲストに小池百合子氏（衆議院議員、元環境大臣・防衛大臣、自由民主党 元総務会長）をお迎えしました。



講師 牧野氏

第1部では、『失敗から再生に向けての決断』と題して、牧野氏が講義を行いました。講義の冒頭、水素ビジネスに関する先進的な取り組みと、さらなる水素活用の将来展望をご紹介頂きました。続いて、入社時から労働組合委員長や子会社社長等を経て経営トップに就任するまでの、ご自身の軌跡についてお話し頂きました。その中では、営業所や子会社の立て直しなど現場で数々の修羅場を経験されたエピソードや、社長に就任されてから遭遇した負の遺産の処理、さらには失敗から学んだことなどについても触れて頂きました。講義の終盤では、経営者として苦境を乗り越える際の心構えとして、「プロ意識を持つ」ことや「ピンチをチャンスに変える」ことなどをお伝え頂き、「明るく、楽しく、にぎやかに、組織の風通しを良くする」ことの大切さを、塾生への激励とともにお話し頂きました。塾生からは、「水素で産業革命を行うという志の高さに感銘を受けた」、「『熱い心が行動の源泉』の言葉を心に刻んで行きたい」、「経営トップとして、修羅場、土壇場を行動と熱い心で乗り越えながらも、絶えず社員を思う気持ちを持っていらっしゃるのだと痛感した」などの声が寄せられました。



講師 前田氏

第2部では、『経営改革の道のりを振り返って一大切にしてきたこと』と題して、前田氏が講義を行いました。冒頭に、資生堂の歴史や社名の由来、初代社長が後の経営に遺したものの、企業理念などをご紹介頂きました。その後、2005年に社長に就任された際に掲げられた「3つの夢」と、その夢を全社員が共有し実現に向けて取り組まれたことをお話し頂きました。また、二度の左遷を経験するなどの不遇の時代のエピソードや、近年の米国企業買収の決断と背景、さらには現社長である魚谷雅彦氏（一流塾元講師）への社長職のバトンタッチの経緯と想いについてもお話し頂きました。講義の最後には、「決断を後押しするのはビジョン」であり、「揺るぎない信念を持ち」、「60%即決主義」で「脅威を機会に変える」ことなど、リーダーとしてのあるべき姿について語って頂きました。熱い気持ちを持ち続けられながらも、その誠実な語り口には塾生一同熱心に聞き入り、「学んだことをそのまま実践するのではなく、一旦捨てて、最後は自分で創り上げていくことが大切だと実感した」、「決めるべきときに決断しないことの罪の重さを改めて痛感した」、「若い頃からの想いや信念を失わず、挫折を乗り越え、夢の実現に邁進しやり抜いたことに感銘を受けた」などの声が上がりました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶と、牧野氏による乾杯の後、特別ゲストの小池氏から『日本の底力を活かす』と題して卓話を頂きました。小池氏からは、高い位置から全体を俯瞰する「鳥の目」、ミクロな視点から現場で起こることを見定める「虫の目」、時代の変化を見逃さず先を見通す「魚の目」がリーダーには重要であるとお話しになりました。さらにこうした視点を心がけたうえで、「小池の目」として「大義と共感」を大切にされていること、その一例として、元環境大臣としてクール・ビズの定着を成功させたことや、現在は災害時の安全確保や防災の観点から市街地の電柱を無くす取り組みを行っていることなどをご紹介頂きました。また、世界人口の地域別動向とイスラム人口の増加、欧米の移民対策、地政学的な難民問題など、グローバルな観点から様々な話題をご提供いただき、その知識の豊富さと視点の高さに塾生も感銘を受けていました。卓話後には、講師陣との記念撮影が行われ、その後も各テーブルでは講師・ゲストと塾生とのオープンな意見交換や議論が続きました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、袴を脱いだ交流が行われ、深夜まで大いに盛り上がりました。



特別ゲスト 小池氏



懇親会風景



放談会風景

## 第6回 2015年10月14日(水)

第6回の一류塾は、講師に三枝 匡氏(㈱ミスミグループ本社取締役役員議長)をお迎えしました。講師は三枝氏一人にご担当いただき、『明日を担う経営者人材の条件ー日本企業の強さ再構築をめざしてー』と題して講義が行われました。



一柳塾長(三枝講師ご紹介の様子)



三枝講師



講義風景



質疑応答の様子1



質疑応答の様子2

序盤では、経営者に求められる「フレームワーク」について講義いただき、経営能力を高めるためには経営のフレームワークを習得し活用することが、いかに重要であるかをお話しされました。概念的な内容でありながらも、三枝氏からは、プロ経営者としての経験を交えて具体的にご説明いただきました。塾生からは、「経営には論理が必要であることを具体的に理解でき、納得できた」、「フレームワークの経営への活用はこれまで考えておらず、勉強不足を真摯に反省した」といった意見があがりました。

フレームワークのお話につき、「『日本の経営』の歴史観」と題して、1960年代から1990年代の日米企業の凋落・復興の変遷とその背景や原因についてお話しいただきました。単なる過去の経済状況や環境の説明ではなく、プロの経営者としての卓越した視点からの分析をお示しいただき、また、歴史から学ぶべき教訓と海外企業に大きな遅れを取っている日本企業の課題を、強い危機感とともに語っていただきました。そのうえで、経営者としての経営リテラシーを磨かなければ、組織の存続は危ういことを強い口調で塾生に問いかけられました。塾生からは、「日本の会社の経営の強みが米国で研究され、フレームワークとして活用されていることにも、そのフレームワークが逆輸入されていることも全く知らなかった」、「自分自身の経営リテラシーが不十分なことを痛感した」など、強い自省や課題認識の声があがりました。

講義の終盤では、「変革の死の谷に挑む」と題して、企業再生や組織変革のためにチャレンジすべき取り組みについてお話しいただきました。ここではフレームワークの具体的な活用についてケース・スタディ形式でご説明いただき、塾生の理解が大いに深まりました。最後には、「論理」に支えられた経営を行い、そのうえで「情」の部分を考えることの重要性を、激励とともに塾生にお伝えいただきました。

講義の後には、一柳塾長がファシリテーターとなり、三枝氏と塾生との質疑応答が行われました。塾生からは、フレームワークを自組織で具体的に活用する際の課題やポイントなどについて、多数の質問や意見があがりました。三枝氏からは、ご自身のお考えをお示しになるだけでなく、問題の本質を問い直しながら塾生の理解を深めるよう促され、活発なディスカッションが展開されました。塾生からは、「本を読んだだけでは理解できていなかった部分がはっきりと理解できた」、「これまでは社員のマインドを重視してきたが、論理を先に考えることに取り組みたい」、「全体の痛みを個人の痛み結び付けて解決に向かわせたい」といった声があがりました。

その後の塾生有志が塾長を囲んで行った放談会では、内閣官房の幹部にご出席いただきました。日本の将来に関する大所高所からのお話に、塾生も熱心に聞き入り、また次々と質問が飛び出すなど、熱い議論で盛り上がり、塾長と塾生の交流が夜遅くまで続きました。

なお今回塾生には、三枝氏からの下記の推薦図書を事前学習したうえで講義に参加していただきました。

『増補改訂版 V字回復の経営』日本経済新聞出版社(2013年6月)  
 『「日本の経営」を創る』共著 日本経済新聞出版社(2008年11月)  
 『最新マネジメントの教科書』日経BPMック(2014年4月)



## 第7回 2015年11月19日(木)

第7回の一류塾は、講師に岩田彰一郎氏（アスクル㈱ 代表取締役社長兼CEO）と一柳塾長を、そして懇親会の特別ゲストに平沢勝栄氏（衆議院議員、党・政治制度改革実行本部長）と、福川伸次氏（一流塾特別顧問、（一財）地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）をお迎えしました。



講師 岩田氏

第1部では、『アスクルのイノベーション』と題して岩田氏が講義を行いました。講義の冒頭、いま世界で起こっているデジタル革命の現状と将来の見通しを、アメリカや中国でのEコマース市場を例に出しながらお話しされました。高度なデジタル化が進む世界で、経営者たちには、いま企業は何をすべきかが問われており、認識を大きく変える必要があることを岩田氏は強調されました。そのうえで、3年前に大きな決断を行い、第2世代のEコマースという新たなポジショニングでのビジネスとして「LOHACO（家庭で必要なあらゆる商品をインターネットで購入できる第2世代のEコマースのサービス）」をスタートし、国内Eコマース市場最速の成長を遂げていることをご紹介頂きました。また「LOHACO ECマーケティングラボ」を設立して、日本を代表する企業とビッグデータを基にしたオープンイノベーションを推進していることもご紹介頂きました。最後には、「経営者としてすべきこと」や「経営者としての心得」について、塾生に語って頂きました。塾生からは、「企業の理念とビジネスの成長をリンクして実践されてきたことに感銘を受けた」、「自社のビジネスのポジショニングを明確にすることが市場で勝つために極めて重要であると認識できた」、「企業トップの強い意志と決断力が困難を可能にすると改めて感じた」といった声が上がりました。



講師 一柳塾長

第2部では、『元気と知恵の経営』と題して、一柳塾長が講義を行いました。講義の最初に、ベンチャーを起ち上げた当初の修羅場体験や、その体験を通じて学ばれた経営上のヒントとなる知恵についてお話しされました。続いて、世界経済や社会に関して、これまでの経験が通用しない大きな変化が起こっていることをご紹介頂きました。ITの進歩で今の半分の仕事は機械やコンピュータに置き換わってしまうこと、そのときに「創造力を持った人間力の高い人材」の方が、社会的に価値が高くなることなどをお話し頂きました。また企業にとっても、目に見えないものが重要であり、社長の経営能力が厳しく問われていることもお話し頂きました。終盤では、会社を成長させるためには、自分たちの強みを明確にし、強みを知恵に変えて付加価値とすることが重要であること、また成長分野をビジネスに取り込むこと、そして高い目標を掲げて一気にジャンプアップを図ることが重要であるとお話し頂きました。最後に、経営者にとって必要なものとして、「夢を持つ」ことや「人間力を高める」こと、そして「明るく、楽しく、面白く生きる」ことなどを、塾生への激励としてお伝え頂きました。塾生からは、「塾長の経験に裏付けられており、シンプルな言葉の中に重みを感じた」、「経営者としてエモーショナル・インテリジェンスの重要性を感じた」といった声が上がりました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶と、福川氏による乾杯の後、特別ゲストの平沢氏から『最近の内外情勢について』と題して卓話を頂きました。平沢氏からは、人とのつながりを大切に、ネットワークを広げることの重要さや、また政治家としての苦労やあるべき姿について、具体的なご体験を交えながらお話し頂きました。その軽妙なタッチのスピーチの面白さに、会場も大いに盛り上がりました。卓話後には、講師陣との記念撮影が行われ、その後も各テーブルでは講師陣と塾生とのオープンな意見交換や議論が続きました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、袴を脱いだ交流が行われ、社会・経済の話から趣味の話まで多様な話題で一同大いに盛り上がり、熱い議論と共に塾長と塾生の交流が深夜まで続きました。



特別ゲスト 平沢氏



懇親会風景



放談会風景

**2015年12月3日 当社CEO・一柳が塾長を務める「一流塾」の合同忘年会を開催しました。**

一柳が塾長を務める経営者塾「一流塾」の合同忘年会を開催しました。今年は、福川伸次氏（一流塾特別顧問、(一財)地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）、講師の渡邊五郎氏（元 三井物産(株) 副社長）、特別ゲストの絹谷幸二氏（日本芸術院会員、画家、文化功労者）、熊坂隆光氏（(株)産業経済新聞社 代表取締役社長）にお越しいただきました。また、第8期の現役塾生に加え、第1期から第7期までのOB塾生にご出席頂き、総勢111名で賑やかに行われました。



一柳塾長

福川伸次氏

渡邊五郎氏

絹谷幸二氏

熊坂隆光氏

一流塾長からの開会挨拶で幕を開けた合同忘年会は、冒頭、福川氏から、叡智と努力でこれからの乗り切って欲しいという塾生への激励のご挨拶、ならびに乾杯のご発声を頂きました。その後、渡邊氏からは、これからの人生をより良く生きるというメッセージを、絹谷氏からは、一柳塾長の描かれた裸婦像の絵の上達を軽妙なお言葉でご紹介いただき、また熊坂氏からは塾生のつながりの素晴らしさなど一流塾の魅力をお話し頂きました。

OB塾生からの近況報告では、まず、OB会（一流塾士会）代表幹事で第1期生の抱厚志氏から、OB会の近況と今後の方針等についてユーモアを交えながらお話し頂き、その後、OB塾生からも各期で近況報告を行っていただきました。OB塾生の近況報告に続き、第8期の現役塾生からも自己紹介が行われ、ウィットやジョークに溢れる楽しいスピーチの数々に、会場は大いに盛り上がりました。



OB会代表幹事 抱氏のご報告

OB塾生の報告（第1期生）

OB塾生の報告（第2期生）



OB塾生の報告（第5期生）

OB塾生の報告（第7期生）

第8期現役塾生の自己紹介

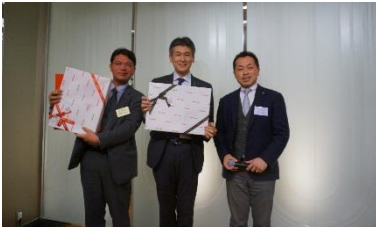
その後、プレゼント抽選会が行われ、講師・ゲストやOB塾生の方々からご提供頂いた豪華賞品が当選すると、当選者や周囲から歓声があがり、会場全体が熱気を帯びるほど盛り上がりました。



プレゼント抽選会の様子

プレゼント抽選会の様子

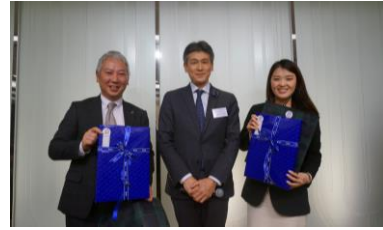
プレゼント抽選会の様子



プレゼント抽選会の様子



プレゼント抽選会の様子



プレゼント抽選会の様子

その後の歓談時間では、テーブルを超えた大きな輪がいくつもでき、講師・ゲストを囲んでの情報交換や近況報告が行われるだけでなく、参加者一同袴を脱ぎ交流をする、良いネットワーク作りの場となりました。

最後に、OB 会副代表で第2期生の河原浩介氏による一本締めで会が締めくくられ、出席者一同、今年一年間を振り返り、来年に向けての決意を新たにしていました。



歓談の様子



歓談の様子



OB 会副代表 河原氏の中締め

OB 塾生からは「他の期の方とも久しぶりに会うことができ良い交流の機会だった」といった声が、また現役塾生からは、「たくさんの OB 塾生の方と歓談し、ビジネスのつながりを持てる良い機会だった」などの声が聞かれました。

合同忘年会の2次会においても、一柳塾長や多くの塾生が参加し、笑い声の絶えない楽しい交流が深夜まで続きました。

## 第8回 2016年1月20日(水)

第8回の一流塾は、講師に木村政雄氏（木村政雄事務所 フリープロデューサー）と福川伸次氏（一流塾特別顧問、(一財)地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）を、懇親会の特別ゲストに残間里江子氏（プロデューサー、club willbe 代表）をお迎えしました。



講師 木村氏

第1部では、『個と経営一人と組織の賞味期限』と題して木村氏が講義を行いました。吉本興業の「やすしきよし」のマネージャー時代、東京事務所の起ち上げや吉本新喜劇立て直しの時期など、それぞれのご経験の秘話をちりばめたユーモアに富んだ語り口で、お話し頂きました。現在は、「量的拡大」から「質的发展」へと社会のニーズが変化しており、異なる分野の相手と協働し、枠をはみ出して流動的に対応する力が求められると説かれました。また、人間や組織には「賞味期限」があり、それを延ばすための秘訣について、ご自身の経験を踏まえてご紹介頂きました。塾生からは、「流動性のないシステムは腐っていくというお話を聞いて、自分の組織に対する危機感を強く感じた」、「人や組織だけでなく常識にすら賞味期限があることに気づかされた」といった声が上がりました。



講師 福川氏

第2部では、『日本力の変容と今後の展開—人間価値主導の経済社会の提案—』と題して福川氏が講義を行いました。講義では、福川氏ならではの経験と卓越した情報収集力に基づく多角的分析により、「日本力（ジャパナビリティ）」の持論を展開して頂きました。日本社会の強みと弱みを明確に示され、自己決定能力向上の必要性を、「百考は一行に如かず」の言葉とともにお話し頂きました。そのうえで、高まるグローバル・リスクや日本にとってのグローバリズムの意義、それらを踏まえた新しい成長モデル「人間価値主導の経済社会」についてご紹介頂きました。福川氏の政治・経済・文化を横断した鋭い分析に、塾生からは「日本と世界に関する卓越した知識をご披露頂き、グローバリゼーションの本質を理解するヒントを頂いた」、「日本の弱みは様々な人が取り上げるが、強みについてここまで明確にまとめられていらっしゃることに驚くとともに、強みを活かすことを企業経営にも取り入れたいと思った」、「聞くだけでなく、見るだけでなく、考えるだけでなく、行動し結果を求めることの大切さを再認識した」といった声が寄せられました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶と、福川氏による乾杯の後、特別ゲストの残間氏から『新しい自分創造のために』と題して卓話を頂きました。残間氏からは、「プロデューサーには、“Creation”と“Imagination”の両輪が必要であることを、ご自身の体験談を交えながらお話しいただきました。また、感性を磨き実感を持って相手に話すことや、異なるものや苦手なものに自ら近づき壁を乗り越えることの大切さをお伝えいただきました。プロデューサーとしての豊富なご経験談や秘話に、塾生も熱心に聞き入り感銘を受けていました。卓話後には、各テーブルでは講師陣と塾生とのオープンな意見交換や議論が続きま

した。

懇親会后、塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、塾生が一柳塾長の誕生日のためにケーキとシャンパンをひそかに用意し、塾長へのサプライズとして皆で塾長をお祝いしました。その後も袴を脱いだ交流が行われ、熱い議論と共に塾長と塾生の交流が深夜まで続きました。



特別ゲスト 残間氏



懇親会風景



放談会風景



## 第9回 2016年2月18日(木)

第9回の一流塾では、講師に魚谷雅彦氏(株資生堂 代表取締役執行役員社長 兼 CEO)と、斉藤惇氏(一流塾特別顧問、株KKR ジャパン会長、前株日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO)を、懇親会の特別ゲストに熊坂隆光(産経新聞社 代表取締役社長)をお迎えしました。



講師 魚谷氏

第1部では、『世界で勝てる日本発のグローバルビューティーカンパニーを目指して』と題して魚谷氏が講義を行いました。講義の冒頭では、前職のコカ・コーラ社でダイバーシティの強みを活かしたご経験や、資生堂の社長に就任された際の秘話などをご披露頂きました。日本の企業は技術力に長けていてもマーケティング力が弱くグローバルにはアピールできていないという課題をご指摘になり、そのうえで、資生堂をグローバル・マーケティング・カンパニーにするというミッションを掲げ、覚悟を持って取り組んでいることを、事例やブランド商品を例に挙げながらお示し頂きました。講義後半は、マーケットが新しいパラダイムに入っている現状に基づき、生活者を起点とした価値の創造や、先行きの不透明な時代にこそ経営型マーケティングに投資し成長を目指すことの重要性をお話し頂きました。塾生からは、「調査目的のマーケティングよりもマーケットを創り出すアプローチの方が大切だと気づかされた」、「日本企業が世界の中で発展するにはマーケティング力を強化してブランド価値を高めることが重要とお話しに感銘を受けた」、「マーケティングは経営課題そのものであることが良く理解できた」といった声が上がりました。



講師 斉藤氏

第2部では、『マクロ経済と経営課題』と題して斉藤氏が講義を行いました。講義では、世界の金融・経済の動向について、斉藤氏ならではの豊富な資料と卓越した分析を示しながら、各主要国・地域の特色をわかりやすく説明して頂きました。そのうえで、日本経済の厳しい状況について言及され、日本の現状をごまかさずに見ることが重要であるとお話し頂きました。塾生に対しては、閉鎖的な思考を打ち破ることや、フレキシビリティを持って過去を否定する勇気を持つことを、激励とともにお伝え頂きました。講義の最後には、日本企業が頭で考えてきれいに物事を進めようとして観念的なビジネスに陥っているとご指摘になり、これからはもっと収益性重視の経営に取り組むべきとお考えをお示し頂きました。塾生からは、「膨大な情報を使いながら、主要国と日本の経済について、とても分かりやすくご説明いただいた」、「日本経済の現状は極めてショッキングで、大いなる危機感を持った」、「過去を否定する経営というお話しはとても身につまされ、保守的に考えてしまっていたことを反省した」といった声が寄せられました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶と斉藤氏による乾杯の後、特別ゲストの熊坂氏から『新聞業界 45年 メディアの舞台裏』と題して卓話を頂きました。メディアの使う常套句をユーモラスにご紹介頂きながらも、メディアが果たす使命やメディア相互の批判・チェックの重要性を述べられました。また、福川伸次一流塾特別顧問((一財)地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官)からは、世界中がリスクだらけであるが故に、自分で物事を決めることが重要であると、塾生へ激励の言葉を頂きました。その後も、懇親会の各テーブルでは講師陣と塾生とのオープンな意見交換や打ち解けた和やかな懇親が続きました。

懇親会后、塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、卒塾を1か月後に控えていることもあり、経営者の立場ではなく、同期生として袂を脱いで交流し共感できる一流塾の価値を改めて実感しながら様々な話題で大いに盛り上がり、熱い議論と共に塾長と塾生の交流が深夜まで続きました。



特別ゲスト 熊坂氏



一流塾特別顧問 福川氏



懇親会風景



放談会風景

## 第10回 2016年3月15日(火) 第8期 一流塾 卒塾式

2015年4月開講の第8期一流塾は、この第10回が最終回です。その第1部の講義では、渡邊五郎氏(元三井物産(株) 副社長)から『リーダーのあるべき姿(その志と心)』と題してご講演頂きました。



講師 渡邊氏

渡邊氏は、リーダーに求められる資質として、まず「基本に戻れ(back to the basics)」についてお話しになり、基本訓練の積み重ねの大切さを説かれました。そのうえで、「高度な和魂洋才」という日本人として不変的に持つべき心とグローバルな対応力や、「エレガント・カリスマ」といった品性のある生き方などの重要性について、ご体験談を織り交ぜながら分かりやすくお話し頂きました。さらに、日本人のリーダーには、「Engage」「Assert」「Tolerance」の3つが不十分であるとご指摘になりました。経営者としての豊富なご経験から導き出された『リーダーのあるべき姿』を、ユーモアを交えながら終始お話し頂き、塾生もリラックスして講義に耳を傾けていました。塾生からは、「『基本に戻れ』や『自然体で生きよ』のお話しは、改めてリーダーとしての重要なポイントに気づかされた」、「グローバルなご経験に基づいた『和魂洋才』のお話しに感銘を受けた」、「自分に足りない人間力を向上させるためのヒントになった」といった声が寄せられました。

講義の後には、第8期一流塾の卒塾式が開催され、一柳塾長、一流塾特別顧問の福川伸次氏((一財)地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官)、同じく斉藤惇氏((株)KKR ジャパン 会長、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO)、第1部の講義にご登壇頂いた渡邊氏から祝辞を頂戴いたしました。



一柳塾長

一柳塾長からは、過去の延長線上で将来を描くことが難しい今の時代には、枠からはみ出して人間力を高めること、ホンモノに触れて学ぶこと、目の前の損得で行動せず複数の視点で判断することが重要であり、一流塾では、こうしたことを学ぶ機会と場を提供してきたと、これまでの一流塾全体を振り返られました。そのうえで、経営者は「金儲け」よりも「人儲け」の方が大切であり、金や権力や肩書がなくても皆が認めてくれて、良い仲間と世の中に役立つ大きな仕事をするのが重要であると説かれ、一流塾での学びや経験を活かし、塾生の仲間や講師陣と新しい世界を築く意気込みで、「面白く、楽しく、前向きに明るく」生きるよう頑張ってくださいと塾生を激励されました。



福川特別顧問

福川氏からは、「着々寸進 洋々万里」の言葉で、一寸ずつ進んでゆけば遥か遠い先にも到達できることや、「志は高く、思索は深く、行動は着実」であること、共感のコミュニケーションが重要になることなどをお話し頂き、一流塾での学びをこれからのビジネスの成果に活かすように塾生を励まされました。続いて斉藤氏からは、最近では、消費者の方が商品の製造元の企業よりも、商品の評価能力が高くなっているため、企業の中だけで考えて企画した商品は売れなくなっている状況をお示しになり、これからは大企業のタテの関係だけではビジネスは成功しないので、一流塾で築いたヨコのつながりを大切にして頑張ってくださいと塾生にエールを送られました。最後に渡邊氏からは、「粗にして野だが卑ではない」、「麗新」、「人生はただひとたびの饗宴なれば太く豊かに生きられよ!」の3つを座右の銘としてご紹介されながら、塾生への心のこもったお言葉を頂きました。



斉藤特別顧問



講師との質疑応答の様子



一柳塾長からの  
修了証書授与



塾生代表  
中村氏による答辞

ご祝辞の後、一柳塾長から塾生代表の中村氏（(株)三越伊勢丹ホールディングス 執行役員 人事部長）へ修了証書が授与されました。中村氏は、塾生代表して答辞を読まれ、一柳塾長や講師・特別ゲストの先生方への感謝、一流塾での様々な学びや仲間との出会い、今後のさらなる成長への決意などを、熱意に満ちた言葉でお伝えになりました。



一柳塾長  
福川特別顧問  
斉藤特別顧問  
渡邊講師

第8期一流塾 卒塾記念撮影

卒塾式の後には懇親会が開かれ、これまでの学びや思い出、卒塾後のさらなる成長への強い意欲など、互いの想いをぶつけ合い、講師陣も一緒になって熱心に語り合う場となりました。会の冒頭では皆勤賞の表彰があり、一柳塾長から世界で一つの“一柳”スパークリング・ワインが贈呈されました。また、一流塾士会（卒塾生によるOB会）のメンバーも懇親会にご参加になり、第2期OB会副幹事の林氏（(株)グローバルインサイト取締役）から、これまでのOB会活動や今後の方針・計画をご紹介頂くとともに、200名を超える一流塾士会への参加をユーモアと熱意を持って第8期生にお伝えになりました。

また第8期OB会幹事の選出が行われ、岡本氏（岡本工業(株)専務取締役 管理企画本部部長）、坂口氏（新和総合法律事務所 代表弁護士）、石黒氏（丸正(株) 代表取締役専務）が、満場一致で選ばれました。檀上にあがった幹事3人は、卒塾後も第8期生の交流を盛り上げることを誓われました。



一柳塾長と皆勤賞受賞者



一流塾士会  
(第2期OB会副幹事 林氏)



第8期OB会幹事  
(左から:坂口副幹事・岡本幹事長・石黒副幹事)

その後、塾生による1分間スピーチが行われました。いずれの塾生も、一流塾に参加した感想や今後の抱負についてジョークを交えて語り、そのユーモアに溢れたスピーチに会場が笑いに包まれました。スピーチの主な内容は、「一流塾に入って、自分の人生が変わった」、「一流塾で良い仲間と出会えたので、これからますます楽しみだ」、「超一流の講師陣から学ぶことが多く、経営者としてとても刺激になった」、「志を忘れずに、自分を磨く努力を続けて行きたい」など、いろいろな思いが込められていました。

懇親会の後、塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、塾長と塾生が一流塾での思い出などを振り返りつつ、楽しく愉快的な会話で一同大いに盛り上がり、それぞれに名残惜しさを感じながらも袴を脱いだ楽しい交流が深夜まで続きました。



懇親会風景①



懇親会風景②



放談会風景